

書評

回復期リハビリテーション病棟 マニュアル

角田 亘(編集)

北原崇真, 佐藤 慎, 岩戸健一郎, 中嶋杏子(編集協力)

B6変型・424頁

定価: 本体3,400円+税

医学書院刊, 2020年

五里霧中をさまよった過去の 自分にお薦めしたい1冊

【評者】生野公貴 西大和リハビリテーション病院リハビリテーション部

回復期リハビリテーション病棟(CRW: 本書に倣ってこう略す)は2000年に新設され, 私が臨床でCRWに携わったのは2004年のことである。当初はまだ右も左もわからないなか, 先行導入されている数々の病院に見学に行ったり, 当院でどのようなCRWを築き上げていけばよいかと暗中模索, いや, ほぼ五里霧中の状態であった。そのようなときに, もしこのようなマニュアルがすでに発刊されていれば当時の私の机にそっと置いてあげたい。この本を読んだ一番の感想はそれである。

本書はCRWにかかわる膨大な知識やノウハウについて, どのCRWに勤める医療者が見ても一定のコンセンサスが得られるベーシックな内容から, 実際のCRWを長年経験した方でないとわからないような一歩も二歩も踏み込んだ内容までわかりやすく記載されている。特に, 第4章2の後半部分の「復職支援」や「自動車運転再開のための訓練」の項目には大変驚いた。おそらく, 自動車運

転までフォローしているCRWは全国的にもまだまだ少ないと思われるが, すでに詳細な診療フローチャートが完成されており, かつ多くの症例の経験から得られたであろう要点が細かく記載されているところから, 普段のリハビリテーション診療の質の高さがうかがえる。また, 編者であり著者でもある角田亘先生のリハビリテーション医としての誇りが随所に感じられ, “理想のCRWとはこうあるべき”といった力強い記載が読んでいて心地よい部分である。記載内容と同じような取り組みができていればお墨付きを得た気分になり, 今日までの努力は無駄でなかったと安堵している。

この本は, 回復期リハビリテーション病棟に初めて勤めることとなるすべての医療従事者にお薦めする。どの職種の方が読んで理解しやすい内容になっており, CRWにかかわる全職種が共通言語として必ず読むべき「トリセツ」である。中には, 今読んでも襟を正させられる内容が多々あ

り, 現在CRWに携わっている経験者や管理者も一度は手にして読んでいただきたい。

一方, 強いて注文をするとすれば, 「回復期リハビリテーション病棟のリハビリテーション訓練」の章では根拠となるエビデンスの提示(ガイドラインやシステムティックレビュー)があれば, より説得力が増したかもしれない。それは, 私が理学療法士であるがゆえに目に付いたのかもしれないが, 実際のところCRWは日本独自のシステムであり, CRWでのエビデンス情報はまだまだ限られているのが実情である。そのため, 私自身このマニュアルに引用されるような取り組みを自身の所属する病院で実施していきたいと思う。そうはいうものの, 未熟者の私にとってはまだまだ先の話になりそうなので, 取り急ぎ新人スタッフに本書を研修テキストとして1人1冊配布することが直近の私の仕事になるだろう。

